

実践報告

地域の連携・協働をつくる消費者教育コーディネーターの取組

浜松市くらしのセンター消費者教育コーディネーター

山田 真代子・八木 正利

山田：

浜松市くらしのセンター消費者教育コーディネーターの山田と申します。

八木：

八木と申します。

山田：

よろしくお願ひします。本日は地域の連携・協働をつくる消費者教育コーディネーターの取組をテーマに、お話をさせていただきます。本日のお話は、画面の4



点となります。では、早速一点目、浜松市における消費者教育推進計画についてご説明申し上げます。先ほど本市の教育長の挨拶の中にもありましたが、本市では平成28年度に浜松市消費者教育推進計画を策定しました。そして消費者教育の普及に向けた施策に取り組んできたところです。平成29年11月にはフェアトレードタウンの認定を受け、エシカル消費、フェアトレードという、キーワードが少しずつ市民の中にも認知されてきているところです。ただ一方で、「成年年齢引下げ」や「通信販売」などの増加に伴って様々な消費者トラブルが懸念されているところです。そこで施策の検証や見直しをもとに、令和3年度から7年度までを期間として、第二次浜松市消費者教育推進計画を策定しました。本計画の理念は消費者教育の推進による安全・安心でより良い消費者市民都市の実現です。そして、消費者教育と消費者市民についての理解促進、消費者教育推進の体制整備、ライフステージに対応した消費者教育の推進を目標としています。現在この計画に則って様々な取組を進めているところです。

次に消費者教育コーディネーターの役割についてご説明します。現在、浜松市では消費者教育コーディネーターとして教職員OBと行政職員OBの2名体制で活動をしています。私が、教職員OBで、園や学校の消費者教育の内容について理解しております。学校の実情にも精通しています。ちょっと盛って話しましたが、先ほどの平田先生の「盛って話をして欲しい」にしてみました。そのようなメリットを活かして、園や学校における消費者教育の支援や現場で効果的に活用するための消費者教育教材の作成、その活用推進を中心に行っています。

八木

一方、私は、行政職の出身で様々な関係団体ですとか、消費者団体、各協働センター、昔でいうと公民館というところ等とつながることで、ライフスタイルに応じた消費者教育の啓発や推進を担っております。また、商工会、事業者と消費者をつなげることで、「作り手と使い手」をつなぐ取組や消費者教育を推進する上での、予算確保と、あるいは市役所各部署との調整ということも担当しております。このように2名の消費者教育コーディネーターが互いの役割を自覚して、

目標の具現化のために常に協力し合うということで、学校や地域との連携、協働を推進したり、生涯を通じて切れ目のない継続的な消費者教育を推進したりすることに努めています。

山田

では、私たち消費者教育コーディネーターが実際にどのような活動を行っているのか、学校や地域との連携・協働事例について、本市の特色ともいえる4つの取組をもとにご紹介させていただきます。

一つ目は、学校で活用できる消費者教育教材の作成、活用の推進です。現在学校において消費者教育を推進する際には、様々な課題があるとされています。そこで私たちは、学校現場で多くの先生方が容易に活用できる消費者教育教材の作成に取り組んでいます。教材作成にあたっては現場の先生方、教育委員会、そして消費者教育支援センターにもご協力をいただき、子供の実態に合った現場で活用しやすい教材づくりにつとめています。画面はこれまで本市で作成してきた消費者教育教材の一覧です。これらの教材は、市内の各学校に配付し、活用されています。教材と合わせて指導ガイドも作成して配付していますので、先生方からは使いやすいとの感想もいただいています。私たちはどなたにもご自由に活用していただけるようにと、これらの教材がすべて浜松市のホームページにも掲載をしております。「浜松市くらしのセンター消費者教育教材」と検索していただくと、このような教材一覧があります。ぜひ、ご覧いただければと思います。しかし、私たちはこれを作って終わりとは考えていません。より多くの先生方に活用していただき、そこからいただいた感想や意見をもとに時代のニーズにあった教材に加除修正することで、より教材の質を上げていきたいとも考えています。そこで、校長会や教員研修会に出向き、消費者教育の大切さを説明するとともに、積極的な教材の活用を呼びかけています。二つ目に各校種で実施している消費者教育出前講座を紹介します。画面は、小学校6年生を対象に行っている出前講座「SDGsとエシカル消費」の様子です。講座では、児童労働や食品ロスなどの事例を取り上げて、私たち一人ひとりの消費行動が、世界の人々のくらしとつながっていること、未来の社会や環境に、大きな影響を与えていることなどについて話をしています。子供たちからは、「初めて知ったことが多く驚いた」、「これからの地球のためにもエシカル消費を意識していきたい」という感想があります。この他にも教材を活用した出前講座や成年年齢引下げに伴う、高校や大学生向けの出前講座も行っています。

八木

三つ目ですけれども、フェアトレード推進に伴う取組として行っております静岡文化芸術大学との連携についてです。文芸大の教授から本市のフェアトレードタウン認定に際しまして、理念や具体的な取組等、様々なご指導やご助言をいただきました。また、学生サークル「リトルアース」の皆さんには、市内でフェアトレード商品を扱っている商店を紹介する「フェアトレードマップの作成」や「フェアトレードタウンの啓発イベント」等でご協力をいただいています。最後は地域の様々な事業者の方々との連携として行っています、夏休み親子消費者教育講座です。現在、様々な事業者の方々SDGsの達成に向けた取組を行っています。しかし、そのことを十分に認識していない消費者が多いというのが現状です。そのため、商品を作る「作り手」と消費者である「使い手」をつなげることで、お互いの想いを知り、身近な生活を振り返る機会につなげたいと考えました。そこで取り組んだのが夏休み親子消費者教育講座「SDGs探検隊」の催し物です。

これまで協力していただいた事業者の方々ですが、安心・安全にこだわった豚の育成、加工、販売レストラン経営を行っている「三和畜産のとんきい」、地域で発展した伝統工芸、「遠州綿紬」を現在に合った形で消費者に発信して、そして広めている「ぬくもり工房」、「小野江織物」。誰もが働きやすいユニバーサル農業を通して持続可能な農業経営を行っている「京丸園」です。講座では参加者の皆さんに体験活動や作り手の話を通して、身近な生活の中でできる SDGs の達成に向けた取組について考えてもらいました。本講座は、親子で実施したことで、子供と保護者が共に学ぶ機会となり、家庭での消費生活に繋がることが確認できた効果的な取組です。また、事業者の皆さんからは、自分の行っている事業を SDGs 視点で捉えることができたという意見も寄せられ、好評でした。

山田

おわりに成果と課題についてです。成果としては各種学校における消費者教育が充実してきたこと、また様々な団体や人とのつながりが深まり連携が強化されてきたことが挙げられます。一方課題としてはデジタル教材への移行、新社会人や子育て世代などへの消費者教育の充実、さらに、これからの消費者教育の担い手の育成や関係者同士をつなぐ取組の充実が挙げられます。今後も私たち消費者教育コーディネーターとして、地域の学校の連携・協働を充実させていくことで、消費者教育のより一層の推進を図っていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。以上で発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。